

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502525		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	第二こうせい苑グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府八尾市中田3丁目54-26		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502525-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全ての利用者様が安心して生活でき、家族様も不安解消できるよう連絡を密にとり、思いを汲み取れる様に利用者様に寄り添い「その人らしい暮らし」を少しでもサポートできるよう取り組んでいます。外出できる際には地域住民と挨拶を交わし関わりを持ち、今後はコロナ禍も第9波とはなっていますが、徐々にでも、気軽に散歩や買い物に出かけたり、家族様との繋がりも大切にし、入居者様に居心地の良い場所として支援に努めます。
法人母体が、医療法人という事もあり医療等の連携を図り、看取り介護も行っている。また、法人全体として、質の高いサービス・研修会・資格取得支援等にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「24時間いつでも介護サービスを受けられる施設を」との声をを受けて立ち上げられたホームです。入居者のさまざまな個性にチームワークで寄り添うケアを行っています。場所や部屋は、字が認識しやすいよう大きく読みやすく立体的に表現し掲示しています。共用場所の壁には棧より少し上がったところから紙で作った紅葉したもみじの葉が流れるように飾られ季節感を醸し出します。職員手作りのレクリエーションのゲームも数種備え、和やかな話し声の絶えない中、テレビを見る人、ゲームや塗り絵をする人、それぞれに好きなことを楽しみ、時を過しています。会話が聞き取りにくい人のために、職員の子供が使っていた「お絵かきボード」を活用するなどの工夫も随所に見られ、家族にも好評です。会議では一方向の通達だけでなく、入居者に関わる些細な事も毎回議論され、改善策が導き出されています。職員が発言しやすい会議は多い場となり、会議を通してチームケアが実践されています。ホーム長は「利用者寄り添うケア」を目指し、「利用者本位」の指導を行い、職員にもしっかりと受け継がれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に当事業所の理念を事務所やフロアに掲示し、いつでも確認できるようにしている。また法人理念は給料明細にも記載され常に目に触れるようにしている。	法人理念と事業所理念は事務所・各フロアに掲示しています。職員入所時と会議の時にホーム長が理念について話しをし、周知しています。面会者にも目につくように面会簿記入場所の机上にも掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍だった事もあり、二類から五類に移行した事で徐々にではあるが、散歩や外出等外部の接触が増えてきているが、日常的にとはまでは至らない。ただ、感染拡大に伴い今後の事は不透明である。	地域ボランティアの受け入れはコロナ感染の影響が不透明のため、まだ控えています。警報音が鳴る避難訓練の際には、近隣へ事前に挨拶に伺っています。ホーム周辺のゴミを収集したり立て看板の倒れを直すなど日頃から整美に気を配っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、6月から再開され、地域の方や家族様に事業所の支援や実践している事を伝え当事業所に対し理解がより深まるよう取組をしている。今後オレンジパトロールにも参加予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催していたが、コロナ禍になり開催を控え6月から開催が再開された。月末に当苑での全体会議にて開催時の内容を伝達し、それとは別に回覧にもまわし、周知される事によりサービス向上に生かす。	地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表・利用者が参加し開催しています。家族代表から「介護保険のことを知りたい」と質問があり、法人の強みを発信することができました。運営推進会議の会議録は職員にも周知しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染症の事もあり、会って話す事はほぼなく、電話や封書対応をし連携に努めている。また、生活福祉課の担当者が変わり対面でも対応も行い関係構築に努めている。	ホーム長がグループホーム分科会の役員をしています。生活保護の受け入れもあり、連絡を密にとり、福祉関連の疑問があれば指導を仰ぐこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の内部研修において当事業所が『身体拘束』の研修担当となっており、資料作成等を通じ担当者だけでなく、苑全体で身体拘束とは何か？という事柄について考え実践し理解を深めている。また窮屈に感じないように訴え時には天候や体調に配慮しながら散歩や外気浴をし気分転換を図っている。	3か月に1度会議をしています。スピーチロックを含め自身では気づきにくい事柄も議題に挙げ話し合っています。法人内での「身体拘束」の研修担当になったことで、事業所全体で理解が深まっています。物を窓外に投げる行為を心配した家族から、駐車場側の窓を閉めてほしいという要望がありましたが、行為を制止せず、リスクを軽減した上で、部屋の換気も可能な接点を話し合いで探ることができました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人による内部研修や外部研修に参加し虐待とは？虐待につながる物事を周知にすることに努めている。虐待につながり易いストレスの溜まりにくく何かあれば相談できるような環境作りを整えるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議に参加し情報共有をしている。また、会議後の勉強会にて成年後見人制度を学ぶ機会があり知識として今後の社会において欠かせない制度という理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき理解・納得して頂いたうえで契約を締結している。変更があれば、文書及び口頭で説明し同意を頂いている。また不明な点がある時は都度理解していただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族様とは常にコミュニケーションをとり、私達からも積極的に関係を深め話やすい雰囲気を作り関係構築に努めている。言いにくい事や伝えるのを躊躇う方もおられる為、ご意見箱の設置をしている。また公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。	家族からの「職員の名前が分からない」との声があり、職員の顔写真を撮影、名前を記入した一欄表をフロアに掲示しました。その結果職員と家族との関わりもスムーズになり距離感が近くなりました。ホームが発行する広報誌には利用者の日頃の様子を掲載し家族に送っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日常的に職員が発言しやすい環境づくりに努めると共に、細かな事にも傾聴している。また定期的に行っている個々への面談を通し場合によっては提案を受け入れ運営に反映させている。	ホーム長は職員の話によく耳を傾け、職員は意見を率直に伝えることができています。生活環境が変わっても働きやすい職場環境があり、女性にも働きやすい職場です。主任はストレスをためない職場作りを目指し、たわいのない雑談を交え、笑いの内に職員とふれあうようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・勉強会や個々に業務遂行の指導を行い意識向上を図ると共に、目標や働きがいのある職場や環境に配慮し職員の定着に努めている。また、介護福祉士の資格取得に向け法人内において勉強会を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量は把握している。その時々に応じて指導を行う事で、力量の底上げを行うと共に、法人内の内部研修にて自身の興味のある項目に積極的に参加できるようになっている。項目は15項目ある。また、項目ごとに各事業所が発表する事で他部署との交流を深め意識・知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会に加入している。コロナ感染症も5類に移行した事により今後は他施設見学会や懇親会が行われると思われる。他事業所との交流を深める事で情報や相談が行える関係を密にとり関係構築に努め各々のサービス向上の取組に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向や要望を出来る限り実現できるよう寄り添った援助に努め、入居後暫く関わった職員が記録し、情報の共有に努め、早い段階で馴染めるよう他者との関りや関係構築し今までの生活環境に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から家族様のお困りごとや不安な事にも耳を傾けている。入居後も家族様とのコミュニケーション及び連携が大切と考え体調不良や変化等があれば、都度連絡し面会時や連絡時に様子を伝える事で安心して頂けるよう日頃から密に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や担当ケアマネ、医療情報等から必要な支援を見極め、サービス計画に繁栄させている。必要時には医療・訪問歯科や皮膚科との連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、今までの習慣を尊重し出来る事をして頂き、居場所と思えるよう配慮し、その時々で、家族の様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に面会時には、家族様の要望や不安等を傾聴し信頼関係を築きながら支え、日常生活の様子を伝えている。また、コロナ禍以前は家族様も一緒に食事をされる事もあったが現在は行えていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙、入居者様の希望により、友人や家族様に電話で話される事もあり、家族様以外にご友人が遊びに訪れたりされ、喜ばれている。	リモート面会も行いましたが、入居者は家族という認識が持てないこともあり。電話で友人と話したり、手紙のやりとりしたりする利用者もいます。七夕の短冊を書いたり、年賀状のやりとりができる人も増え、少しでも長く継続できるように支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係を把握。気の合う方同士の席を隣にするなど配慮し少しでも楽しく過ごしやすい環境作りをしている。レクリエーションや体操を一緒に行うなど参加して楽しめるような時間を作れるよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から信頼関係を築き、いつでも立ち寄って頂けるような関係づくりをしている。転居の連絡をくださる家族様もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方については、表情や会話等から状態をくみとり本人らしく過ごせるよう支援し、困難な方は日頃から関わりをもち出来る限り話しかけ寄り添うよう努めている。	やりたいと思うことを大事にして、困難なことも拒否はせず、受け入れるようにしています。寄り添う職員がいる事で、入居間もない利用者も安心して生活を始めることができます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサマリーや面談からの情報にて、生活習慣の把握に努めている。入居時の状態や表情や接し方からも情報を把握し共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身心の状態の把握をし、状態報告ノートや連絡帳、個人記録に記入し共有を努めている。定期的にカンファレンスやモニタリングを作成し各フロアの職員毎に閲覧している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングには日々の状態や医療連携先などを居室担当者が作成し、3～4カ月に1度カンファレンスをし、担当者及び計画者とは他職員数名で課題を検討している。他機関・ご家族様の意見を受け入れ計画作成している。	職員一人ひとりがしっかりと計画作成に関わっています。フロア会議で個々の利用者に関わる要望などをあげ、カンファレンスで問題を提起し検討しています。家族にもどう過してほしいのか確認しています。介助時に本人が苛立ち等を抱いてないか観察をし、リスクも考えに入れながら計画作成をしています。モニタリングは月末に、計画更新は3～6ヶ月で行っています。カンファレンスは計画作成前に行います。計画の変更は色を変えてわかりやすく印字し、計画変更箇所は連絡帳にも書いて、夜勤者→日勤者→夜勤者と申し送りを繰り返し気づきも一緒に共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は時系列で行い、それ以外の記録は見やすいように、項目として個人記録に記述できるようになっている。日々の個人記録や各情報共有ノートを開覧し必要時にカンファレンスを行いケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診等で家族様の要望により介護タクシーの手配を行う。また家族様が困難な場合は職員が受診に付き添っている。また、救急時には、家族様・医療と連携し不測の自体にも対応している。場合によっては必要物品の購入も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容は継続し利用し、コロナが5類になったが、ボランティアの受け入れは現在行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様希望のかかりつけ医を確認。月に2～4回主治医の往診。精神科・眼科・歯科・整形外科・皮膚科の往診もある。また、家族様の希望で外部の病院を受診することもあり、困難な場合は職員が行っている。	連携医療機関による訪問診療は各利用者月2回以上あり、訪問看護は毎日ですが、入居前のかかりつけ医への受診も可能です。24時間連絡可能で、母体の医療法人との連携体制も万全で安心です。眼科、歯科、整形外科等の受診も可能です。感染予防、緊急時の対応、介護技術に関する研修制度もあり、自由に参加できます。徹底した感染予防対策で、コロナ感染者の発生を防ぐことができました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、ほぼ毎日訪問看護に健康管理や医療面の報告・相談をしている。また、夜間においてもオンコール体制になっており、随時対応して頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い長期入院時には主治医から病状の説明を受けたり、家族様やSWIにより情報を得ている。退院の打診時には速やかに受け入れできるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している聞いているが終末期には、再度十分説明し家族様の意向にそった支援をし、ご家族様・医療・職員が連携し穏やかに終末期が過ごせるよう出来る限りの支援をしている。	「看取りに関する指針」にそって段階に応じた看取りケアを実践しています。看取り後の振り返りも行い次に活かしています。利用者の側で簡易ベッドで横になり最期を看取った家族は、泣きながら感謝の気持ちを伝えることもありました。管理者は後悔することのないように、利用者や家族の意向を繰り返し確認し、家族に寄り添った看取りケアを大切にしたいと話します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命士の講習を受けている。緊急時の対応について、事業所内にはマニュアルを掲示し、冷静に行動できるよう努めている。事故や急変時の対応や状況を記録し、情報共有に努め、誰が対応しても同じようなクオリティーを目指している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練を年2回。水災害訓練を年1回行い、主に夜間想定の際しい状況の中で行っている。消火器の把握、避難経路の共有に努め、夜間においては近隣職員が駆け付ける体制にもなっている。災害時は食料等の準備もしている。	防災管理者を置き、年2回、夜間も想定した避難訓練を実施し消防署へ結果報告書を提出、振り返りもしています。消防士による救命処置講習、八尾市職員による防災研修も実施しています。洪水訓練は年1回実施、洪水避難確保計画書を作成し、迅速な避難の確保ができています。災害対応マニュアル、対策本部組織表、自発参集表を文書化し職員間で共有しています。備蓄品7日分を確保、品名、消費期限を明記管理しています。法人のセントラルキッチンで同様に備蓄された保存食もあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権とプライバシー保護についての内部研修があり、職員各々の意識向上に努めている。それぞれの人格などを考慮し認知症の症状の違いを理解し関わり方を考え実践している。	「個人情報保護方針」を作成し一人ひとりのプライバシーや人格を尊重するケアに努めています。トイレ誘導の際にも配慮した声掛けを心掛けています。個人の持ち物も記名箇所を裏返して対応、プライバシーの確保に繋がっています。不適切な対応に遭遇した場合、管理者はそれとなく具体的な対応方法を助言し、コンプライアンス意識の徹底に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や排泄についても、本氏が意思決定しやすいような声掛けを行っている。自己にて表現や判断が出来ない方は表情などから思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルは一応あるが、利用者様の状況や状態を最優先とし対応している。業務遂行が難しい場合は職員同士声を掛け合いチームワークを生かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服装や季節感が感じられるような支援し、身だしなみを整えている。また、定期的な訪問理美容も利用し、毛染めや顔そりやカットを本氏希望にて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を言ってもらったり、月に一度の郷土料理を楽しみにしている。コロナ禍以前は利用者と共に職員も一緒に食べていたが、現在は感染症予防の為に別々にいただいている。また、お茶を入れたり、食器拭きなども手伝って頂いている。	法人のセントラルキッチンよりメニュー毎に届き、「食事、水分摂取表」を基に、利用者に添った盛り付けをしています。白飯と汁物は職員が調理し、利用者にはできる事を手伝います。利用者が希望のメニュー、味、形態、を伝えることでメニューにも反映されています。食前には体操をし、メニューの紹介もしています。毎月、赤飯、カレー、菓子パンの日を設けていますが、特に赤飯の日が好評です。便秘予防の為、ヨーグルトを2日に1回提供しています。10月には、お好み焼き店を貸し切り楽しみました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はその都度記録し摂取量の把握に努め、水分が少ない方については好みに合わせて適宜提供している。家族様にも協力していただき、嗜好品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけやその方に合った介助を行っている。夕食後には、義歯洗浄を行い、定期的に訪問歯科を利用している利用者様もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録からパターンを把握し、適宜トイレ誘導を行い、パットの種類も考慮している。自立されている方は自由に行っている。その場合は排便コントロールが難しいこともある。	排泄チェック表により、トイレまでの移動支援、声掛けをしています。利用者の様子から、さりげなく声掛けもします。夜間は睡眠の妨げにならないように、おむつやパッド交換を行い、自立排泄の利用者にはトイレ誘導をしています。便秘気味の利用者には、医師の指示を仰ぎ、直ぐに薬ではなく、水分補給や繊維質の食事の提供で改善を試みます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事摂取量に気を配っている。便秘の原因やそれに起因する影響を理解し、毎朝ラジオ体操をし、少しでも体を動かし腸を動かす事で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3のペースで入浴している。体調により日が開くことはあるが、状態により場合によっては、NSIに相談のもと行っている。利用者の状態に合わせ、ベッド上で清拭や髪洗を行っている。	入浴は週2～3回ですが状況により柔軟に対応しています。入浴を好まない利用者には、変わりの職員が声掛けをしたり時間を変えたりしています。好みのシャンプーや口紅、眉墨を持ち込んだり、音楽を流しながら入浴をする利用者もいます。敏感肌用の浴剤も揃えています。浴室の壁には富士山や桜の写真が貼られ、楽しく入浴できる工夫をしています。機械浴で湯船に浸かることができ、洗い場は滑り止めマットが敷かれ安心安全に入ることができています。「日頃の思いを話す場となり、信頼関係を築く為の大切な時間です」と職員は話します。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて支援をおこなっている。また、その時々状態に応じ都度支援を行っており、室温や照明、寝具の調整にも配慮し安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスが無いように、ダブルチェックを行っている。また、往診時に処方の変更があった際には連絡帳に記入し情報の把握をし、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳みや、食器拭きや洗い物、雑巾干し等、出来ることはしていただいている。外出レクに先月からコロナ感染症が5類になった事で行っている。また、家庭菜園として、オクラやゴーヤやイチゴを育て、収穫をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の事もあり、未だ中々外出できないことから、玄関先で外気浴やオクラやゴーヤや花に水やりをした。また、3年ぶりにお花見も行えて、皆様喜んでおられた。	近隣の散歩やベランダで外気浴をしたり、ホーム前のベンチで気分転換をしたりしています。花や野菜の水やりは外気に触れる機会となっています。食事を伴わなければ家族との外出もできるようになりました。室内で過ごすことが多いため理学療法士の指導の下、ストレッチや昇降訓練を行い筋力低下の予防に繋げています。手作りのパズルやぬり絵で楽しく過ごすことができるよう支援に努めています。	利用者、家族、職員から外出の希望が多く寄せられています。今後は外出の機会が増し、利用者職員ともにより閉塞感のない暮らしができることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないことで不安になられる方もおられるため、自身にてお金を少額であるが持っておられるかたもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を毎年書ける方は書いて頂き、書けない方については、代筆を行っている。特に直筆の年賀状は家族様が喜ばれている。本人希望時には電話も使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションを利用し、書道や季節感のある壁飾りを利用者と一緒に作り飾っている。また、湿度や室温を調整し過ごしやすい環境づくりに努めている。各フロアに2~3台の空気清浄機を配置している。また、トイレ内の汚物の匂いが漏れないよう配慮している。	フロアは広く、大きな窓からは外の景色が見てとれます。壁には季節の飾り物が施され、利用者の日常の様子の写真が飾られています。椅子やソファにはクッションが添えられ心地よく座れる工夫があります。温度湿度管理は計器ばかりでなく利用者の暑い寒いの体感も参考にします。先の尖った物、ホッチキスの針等危険物に注意を払い、安全に過ごせるように努めています。童謡や懐メロが流れ、柔らかな間接照明の下、それぞれの穏やかな暮らしがあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、話しやすい方、テレビの見え方や空調、トイレや居室までの同線を考慮し自席を決めている。新聞やテレビを好きな時に見られるその時々で談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や食器を持参されるよう伝えている。ご本人にとって居心地のいい居場所になるように配慮をし、他界されたご主人の写真や家族写真も飾っている。家具については同線を考慮している。仏壇を持ち込まれている方もおられる。	表札は大きく分かりやすい表示をしています。ベッド、クローゼット、カーテン、エアコン、洗面台はホームが用意、利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込みます。自筆の般若心経を掲げる元書道教師、ビーズ作品用の作業机を置いた部屋や、ピンクが好きな利用者は淡いピンクで統一するなど、利用者の意思を尊重し個性豊かな居室作りとなっています。衣替えや小物の整理は職員と共に行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全バリアフリーになっている。また、トイレ、浴室には手すりがついており安心して歩行が出来る。トイレや自室がわかりやすいように表示や掲示などを工夫している。		